縄文のむらから古墳のくにへ（小学6年・社会）

（　　）小学校（　）年（　）組　氏名（　　）

大口城跡に地下式横穴墓？

6世紀 隼人族定住か

伊佐市大口里の大口城跡に古墳時代のものとみられる横穴がある。跡を整備し桜の植樹を続けている「大口城を愛する会」の会長で考古学者の新東晃一さん(77)は、隼人族の地下式横穴墓とみている。

伊佐

古墳時代の地下式横穴墓とみられる穴　＝伊佐市大口里

知らんかった!!

大口城は1158年ごろの牛屎(ごし)氏に始まり、菱刈・相良氏、島津氏へと所領が代わった中世の山城。戦国武将・新納忠元も城主を務めた。同会が2014年に調査を始め、17年に「切り土塁」とみられる斜面に偶然、横穴が見つかった。

新東会長は「もともとは埋葬する遺体を入れるための竪穴があったが、新納城主の時代に風よけの土塁を造るために削ったところ、横穴から人骨が見えたため、壊さないで残したのではないか」と推測する。横穴は玄室につながる羨道(せんどう)部とみられ、高さ、幅、奥行きとも約60(センチ)。玄室は幅1・3(メートル)、奥行き3(メートル)、高さ0・8(メートル)ほど。

大口城跡で確認された地下式横穴墓とみられる穴の内部　＝伊佐市大口里

南九州を拠点とした6世紀ごろの隼人族の墓とみられ、大口城跡では初めて。正確な把握には発掘調査が必要だとし「伊佐に隼人族が住んでいたことを示す貴重な痕跡の可能性がある」と話す。

晴天時の土曜午前中は、同会が大口小学校裏の現地で整備、調査をしており、見学希望があれば案内する。

2025年6月18日12面

【問1】　伊佐市大口里の大口城跡に何時代のものとみられる何があるのでしょう

【問2】　何とみられる斜面で問1は偶然見つかったのでしょう。4字で抜き出しましょう

【問3】　問1は，何につながる何部とみられるのでしょう

【問4】　問2は，いつごろの何とみられるのでしょう

【調べてみよう】

むずかしい漢字とことば

伊佐（い・さ）　跡（あと）　古墳（こ・ふん）　穴（あな）　植樹（しょく・じゅ）　隼人（はやと）　菱刈（ひし・かり）　島津（しま・づ）　武将（ぶ・しょう）　新納忠元（にい・ろ・ただ・もと）　土塁（ど・るい）＝敵が入ってくるのを防ぐため土を盛って造った土手　斜面（しゃ・めん）　偶然（ぐう・ぜん）＝思いがけないこと　埋葬（まい・そう）＝死んだ人の体や骨を土の中にうめてほうむること　削（けず）る　壊（こわ）す　推測（すい・そく）＝おしはかって見当をつけること　玄室（げん・しつ）＝死体をおさめる部屋　幅（はば）　奥（おく）　拠点（きょ・てん）　把握（は・あく）＝ことがらを正しく知ったり、理解したりすること　発掘（はっ・くつ）　貴重（き・ちょう）　痕跡（こん・せき）＝過去に何があったか分かるようなあと　裏（うら）

©南日本新聞社　教育目的以外の無断転載　複製および頒布は禁止します　南日本新聞社